



本内容に関する問合せ先：
一般財団法人 日本環境衛生センター 管理部広報課
TEL: 044-288-5095, Email: koho@jesc.or.jp

酷暑から作業者の命を守る！熱中症対策

昨年6月、厚生労働省による改正労働安全衛生規則が施行され、企業における熱中症対策が義務化され、全国の事業所で体制整備が進みました。間もなく夏本番を迎える今、規則について振り返り、当センターの取り組みを紹介します。

厚生労働省が定める3つのポイント

対策を怠ると、**6か月以下の拘禁刑か50万円以下の罰則**が科される可能性も！

① 体調異変を“すぐ報告できる体制”の整備（義務）

熱中症の初期症状（めまい・だるさ・吐き気など）を感じた際、誰に・どう連絡するかを明確にし、全員に周知する。

② 重症化を防ぐための“対応手順”の作成（義務）

作業中断、冷却、救急搬送などの手順を文書化し、共有する。

③ 高温環境での作業基準の明確化

暑さ指数（WBGT）28℃以上or気温31℃以上の環境で連続1時間以上、または1日4時間超の作業に該当する場合、特に厳格な対策が求められる。



熱中症対策の取り組みの例

屋外調査で

- ✓ 作業前後と作業中の安否確認報告（Teamsを活用）
- ✓ 休憩を取りやすいような作業手順作り
- ✓ 空調服の活用
- ✓ 首巻型の保冷剤の個別配布
- ✓ ブルーシートで日陰作り
- ✓ 塩飴の配布
- ✓ 熱中症対策・応急処置に関する研修の自主開催。（環境科学部調査課の取り組みより）

おすすめグッズ

- ✓ 吸汗・速乾性のインナー（上下）。高校野球観戦でも必須アイテムです。
- ✓ 首に巻く冷やしタオル。5本セットで500円～600円。ドラッグストアで購入できます。冷やしすぎ注意！
- ✓ サングラス。「目」から浴びる紫外線が熱中症のリスクになるってご存知でしたか？
- ✓ 冷暖房ベストは他の熱中症対策と併用するのが◎。バッテリーの持ちと価格は△...

（職員の体験より。効果のほどは...お試しください◎）



熱中症は、適切な対策で確実にリスクを下げられます。制度改正を機に、従業員の命を守る仕組みづくりをともに進め、この夏を安全に乗り越えていきましょう。

厚労省熱中症ガイド→ <https://neccyusho.mhlw.go.jp/download/>

祝

廃棄物資源循環学会「有功賞」を受賞



5月29日、当センターは「令和7年度 有功賞（学術部門）」を受賞しました。本賞は、廃棄物・資源循環分野において顕著な功績を挙げた個人・グループに授与されるものであり、国立環境研究所とともに長年にわたり進めてきた一般廃棄物処理実態調査データのアーカイブ化とその利活用に関する取り組みが高く評価されました。

環境規制の最新動向とJESCの取り組み

近年、環境リスクに関する制度改正が相次いでいます。当センター環境科学部では、これらの動向を踏まえ、科学的根拠の提供や安全管理の強化に取り組んでいます。

NEWS① 光化学オキシダントの環境基準改正

従来の環境基準は「1時間値が0.06ppm以下」であったため、年間8760時間のうち1時間でも0.06を超えると未達成となり、全国の達成率はほぼゼロでした。

本年4月から環境基準が改正され、短期基準：8時間平均 0.07ppm以下、長期基準：日最大8時間平均の年平均 0.04ppm以下の両方を達成して環境基準達成と評価されます。環境科学部が令和5年度データで検証したところ新基準の達成率は14.6%にとどまり、新基準でも基準達成には多くの課題があるとみられます。

引き続き、当部の研究成果をふまえ、国へ科学的根拠を提供し、国が取り組むPM2.5・光化学オキシダント対策「[PM2.5・光化学オキシダント対策ワーキングプラン](#)」の推進に貢献します。

NEWS② 労働安全衛生法「化学物質リスクアセスメント」



化学物質リスクアセスメントは、化学物質を使用する前に危険性・有害性を評価し、安全な作業方法を整える仕組みです。労働安全衛生法の改正により、2026年4月から対象物質が大幅に拡大しました。

環境科学部では、試薬を扱う部署として専任担当を置き、法改正に対応したアセスメントを実施。試薬等の危険性情報や応急処置、保護具の着用方法などを学ぶ社内研修により、化学物質リスクの低減に努めています。

NEWS③ ダイオキシン類調査令和6年度全国調査結果の公表

ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、国・自治体が実施した大気、水質、地下水、土壌の調査結果が公表されました。環境科学部は昨年度、環境省からの委託を受け、データを取りまとめました。

◎令和6年度の結果概要

各環境媒体における濃度は、大気、地下水質及び土壌では全ての地点で環境基準を達成していましたが、公共用水域の水質・底質では、それぞれ環境基準を超過した地点がありました。また、ダイオキシン類の排出総量は年々減少傾向であり、令和6年度の排出量は94～97g-TEQ/年となり、令和5年度の排出量（104～106g-TEQ/年）に比べて減少しています。

◎詳しい調査結果はこちらから

（環境調査）https://www.env.go.jp/press/press_03410.html

（施行状況）https://www.env.go.jp/press/press_03313.html

（排出インベントリ）https://www.env.go.jp/press/press_03321.html





JESCの取り組み — 環境保全・国際協力 —

環境問題の解決には、地域での実践と国際的な連携の両輪が欠かせません。当センターでは、海洋プラスチック対策や海外との技術交流など、さまざまな形で環境保全に取り組んでいます。

ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業

環境省「[プラスチック・スマート](#)」特設サイトにて、当推進事業のページが公開されました。海洋プラスチック問題の解決に向け、地域主体の取り組みを支援した本事業の成果がまとめられています。ぜひご覧ください。



<https://plastics-smart.env.go.jp/lbov/>

- * 令和4年度以降、当センター東支局サステナブル社会推進部と環境科学部が環境省より事業を受託し、自治体によるプラスチックごみ対策を支援してきました。
- * 本事業の成果は大阪・関西万博の場でも情報発信しました。会場に掲載したパネルや紹介動画もHPにてぜひご覧ください。

ACAP 技術研修（TNT）を5月に実施

ACAPは韓国国立環境研究院と連携して、大気質のモニタリングや分析技術の向上を目的とした技術研修（TNT）を毎年5月と10月に実施しています。5月12日から15日に実施されたACAPでの研修にはインドネシア、マレーシア、ミャンマー、タイから計4名の研修生が参加しました。



4名の研修生

ACAP 一般公開開催（7月31日）のお知らせ

ACAPでは毎年、小学生から中学生を対象とした一般公開を開催しています。今年7月31日（金）に開催が決定し、施設案内や研究紹介、体験型プログラムなど、子どもたちが楽しく環境について学べる内容を準備しています。子どもたちが環境問題や国際協力に関心を持ち、世界とのつながりについて考えるきっかけとなるイベントを目指しています。



講義の様子



実験の様子



施設案内



また、こうした環境学習の取組の一環として、過去の一般公開をもとに作成した環境学習動画もございますので、ぜひご覧ください。 (<https://www.acap.asia/4466/>)



講座のご案内 衛生害虫に関する講座を開講

第40回ペストロジー実習講座

6月10日（水）～12日（金）の3日間、当センター本館にて開催します。衛生害虫対策の重要性が高まる中、現場で求められる実践的な知識・技術を体系的に学べる実習講座です。調査・採集、同定、殺虫試験、標本作製に加え、ヒアリをはじめとした外来種対策や、屋内外で問題となる昆虫の見分け方などについても学ぶことができます。現場での対応力向上に直結する内容を、実習形式で3日間かけて習得できます。



講座イメージ。お一人ずつ試料や顕微鏡が用意され、手に取って観察していただけます。

* 定員30名です。HPでの募集は締め切りでしたが、若干名のご案内が可能です。受講ご希望の方は、☎ 044-288-4878（ペストロジー実習講座担当）までお問い合わせください。

Pick up news 4～5月に行われた活動をご紹介します

第78回日本衛生動物学会への参加

4月17日、自治医科大学（栃木県下野市）において開催。本学会では、衛生動物に関する研究に携わる研究者が一堂に会し、最新の研究成果の発表および意見交換が行われました。

* 当学会内でJHS感染研・昆虫医科学部より発表された「高床式開放型鶏舎における冬季活動性大型クロバエ類の季節消長について」は、当センター環境生物・住環境部の橋本部長、武藤技術審議役が共同研究者として参加しています。

● 研究内容：高病原性鳥インフルエンザウイルスの伝搬に係ると考えられるクロバエ類4種の発生活動について、埼玉県内の鶏舎に設置されたトラップの捕獲状況をもとに確認したものを。

し尿・汚泥再生処理の今後の在り方検討会

4月24日、昨年12月に引き続き第3回検討会を開催。今回は、今後検討すべき課題について幅広く議論が行われました。次回は、これまでの議論の整理および作業部会からの進捗報告が予定されています。



JEMAとの技術交流会

5月12日、環境衛生維持管理協会（JEMA）との連携により、「日環センター・環維協 維持管理技術交流会（し尿処理）」を開催。当日は、し尿処理分野における維持管理技術や課題について意見交換を行い、相互の理解を深めました。



沖縄県金武地区 最終処分場建設に係る地鎮祭への出席

西日本支局は、金武地区消防衛生組合が実施する一般廃棄物最終処分場の整備に関し、浸出水処理施設建設工事の施工監理を行います。5月18日、工事の開始に先立ち執り行われた地鎮祭には、西日本支局より星野理事と環境事業部の西田主査が出席。組合管理者の金武町長、星野理事（右から3人目）はじめ7名で鍬入れの儀を執り行いました。

